

第7章 目標値等の設定と進行管理

1 目標値等の設定

1-1 目標値等の設定の考え方

本計画の理念である「歩いて暮らせる 住んで楽しいまち よなご～まちなかと郊外がつながるまち 新商都米子～」を実現するためには、各施策を着実かつ効果的に進める必要があります。

そのため、目標指標及び目標値を設定し、施策の進捗状況や効果を定量的に把握することで、施策の進捗や効果を評価します。また、目標の達成により期待される効果についても効果指標として設定します。

1-2 目標指標の目標値

本計画においては、理念や施策・誘導方針の実現に向けて、居住や都市機能の誘導、公共交通ネットワークの形成、防災機能の向上等を定量的に評価・検証する観点から、以下に示す目標指標を設定します。

■ 各目標指標の目標値

目標指標	現況値	目標値	備考
①居住誘導区域の人口密度	42.5 人/ha	43 人/ha	・ 重心が居住誘導区域内にある 100m メッシュの人口合計を居住誘導区域の図上面積で除して算出
	令和 2 年(2020)	令和 22 年(2040)	
②都市機能誘導区域における誘導施設の新築・改築件数	—	3 件以上	
		令和 24 年(2042)	
③中心市街地における通行量	10,714 人	11,000 人	・ 中心市街地通行量調査結果の 12 地点の合計値 ※現況値は新型コロナによる緊急事態宣言発令前の令和元年度を使用
	令和元年度(2019)	令和 24 年度(2042)	
④コミュニティバス利用者数	128,914 人	130,000 人	・ 米子市循環バス「だんだんバス」の年間利用者数の合計値 ※現況値は新型コロナによる緊急事態宣言発令前の令和元年度を使用
	令和元年度(2019)	令和 24 年度(2042)	
⑤自主防災連合組織の結成率	37.9%	100%	
	令和 4 年(2022)	令和 24 年(2042)	

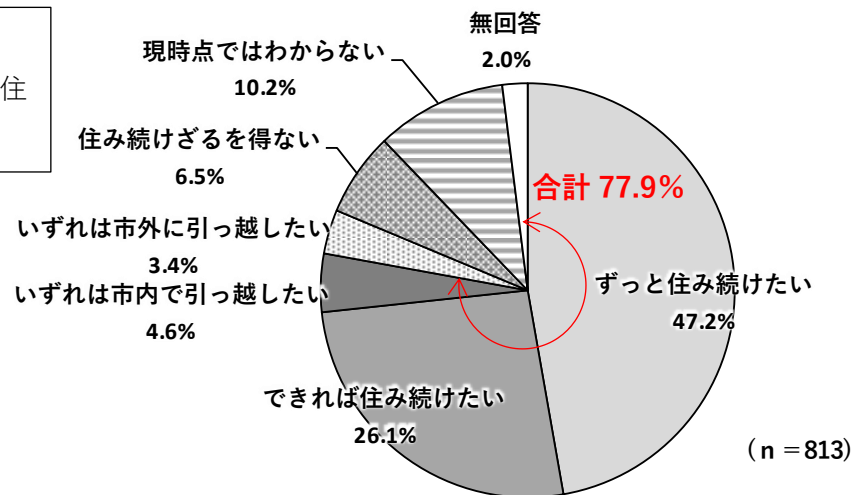
1-3 効果指標の目標値

本計画の実施により本市の住みやすさが向上し、市内に住み続けたい人が増えることが期待される。そのため、目標の達成により期待される効果として、「米子市内に住み続けたいと考える人の割合」を設定します。

目標指標	現況値	目標値	算出方法
米子市内に今後も住み続けたいと考える市民の割合	77.9% (2021年)	80%以上 (2042年)	都市計画区域内の居住者（18歳以上）へのアンケートで「ずっと住み続けたい」、「できれば住み続けたい」、「いずれは市内で引っ越したい」と回答した割合の合計

■ (参考) 現況のアンケート結果

設問：
現在お住まいの場所に今後も住み続けたいとお考えですか。



出典：令和3年（2021年）立地適正化計画策定に関する市民アンケート

2 進行管理

本計画は、20年後の令和24（2042）年を目標年次としていますが、今後の社会情勢や災害リスクの変化、上位関連計画の改定、施策の進捗状況などに応じて、計画や施策の見直しが必要となります。

本市では、「都市計画運用指針」に示された概ね5年ごとを目安として、PDCAサイクル（PLAN(計画)、DO(実行)、CHECK(検証)、ACTION(改善)を繰り返し、継続的に改善する手法）の考え方にに基づき、定期的に上位関連計画の改定状況、施策の進捗状況、評価指標の達成状況などについて把握・検証を行い、評価を行います。特に災害に関する調査結果や予測精度の向上、災害対策の進展等により変化する災害リスクについては、緊急性が高い場合もあることから、5年のサイクルにとらわれず柔軟に計画に反映していきます。

その結果、計画の見直しが必要な場合には、庁内の関係部局、都市計画審議会、関係分野の専門家などの意見をふまえつつ、計画の改善・見直しを行うこととします。

■ PDCAサイクルのイメージ

